サイエンスカフェの概要について（事後報告）

１．開催日時：令和７年３月１３日（木）　18:30～19:30

２．開催場所：三省堂書店札幌店内ブックス＆カフェ UCC

３．関係団体等：三省堂書店札幌店、北海道大学大学院教育推進機構オープンエデュケーションセンター科学技術コミュニケーション教育研究部門 CoSTEP (Communication in Science & Technology Education & Research Program; コーステップ)、日本学術会議北海道地区会議

４．役割

講　師：倉本　圭（日本学術会議第三部会員／北海道大学大学院理学研究院教授／JAXA 宇宙科学研究所 特任教授（兼任））

聞き手：古澤　正三（北海道大学大学院教育推進機構オープンエデュケーションセンター科学技術コミュニケーション教育研究部門 CoSTEP 特任講師）

支　援：宇山　智彦（日本学術会議第一部会員・北海道地区会議代表幹事／北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授)、奥本　素子（北海道大学大学院教育推進機構オープンエデュケーションセンター科学技術コミュニケーション教育研究部門 CoSTEP 部門長・准教授)、難波江　有三（日本学術会議地方連絡委員／北海道大学研究推進部研究振興企画課係長）

５．概要

題目：火星の月から探る水惑星誕生の謎―火星衛星探査 MMX の挑戦

概要：

日本の宇宙探査機 MMX（Martian Moons eXploration）は、2026 年に地球を出発し、火星の周りを周回する衛星「ダイモス」から試料を持ち帰るミッションを計画しています。

今回のサイエンスカフェでは、小学生の頃に偶然見つけた化石をきっかけに地球や惑星の研究の道に進み、現在は MMX プロジェクトの主任研究員として指揮を執っている倉本圭教授を講師に迎えました。

倉本教授からは、自身の研究者としての歩みや最新の探査計画、「なぜ火星には地球の月とは全く違う、小惑星のような衛星があるのか」や「それらの衛星は地球や火星に水や生命の材料をもたらしたのか」など、火星の衛星に秘められた謎についてお話しいただきました。

講演後には「火星の地下活動はどうなっているのか」、「ミッション失敗に備えて、予備の探査機などは準備しているのか」などの、参加者からの様々な質問に倉本教授が丁寧に答え、盛況のうちにサイエンスカフェが終了しました。

６．参加人数：

講演者等：5 名

その他の参加者：12 名

７．特記事項：

三省堂書店札幌店内のカフェで行われた本サイエンスカフェは、最先端の科学研究を行う研究者と一般市民が、飲み物を片手に気軽に話ができる雰囲気の中で行われた。

講師からの講演のほかに、第 26 期北海道地区会議代表幹事（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター）の宇山智彦教授からは、日本学術会議の概要と、市民と対面で話し合うことができるサイエンスカフェの大切さについてお話しがあった。

アンケートの結果では、情報量が多かったという意見や、最先端の研究について知る機会になってよかったなどの意見があった。

挨拶する宇山教授

倉本教授の講演の様子